

ただいまご紹介いただきました、新郎の父の藤井隆弘と申します。両家を代表して、私から一言ご挨拶をさせていただきます

皆さま、本日はご多用のところ、二人のためにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。たくさんの方々から祝辞や、励ましのお言葉等を頂き、心より感謝申し上げます。

〇〇は、3人姉弟の末っ子として育ちました。子どもの頃からピアノやスイミング等を習っていましたが、今でも続けているのが野球です。スポーツ少年団、中学、高校の野球部、そして社会人チームと野球を続ける中で、本日もおいでくださっているたくさんの友人を得、チームワークの大切さを学んだことと思います。

大学を卒業するとき、消防士になりたいと京都市とこちらの消防職を受験、幸いいずれにも合格、どちらにしようかと悩んでいました。あれから10年近く、この間、いろいろなこともあったと思いますが、良き同僚や先輩に恵まれ本日まで続けてしっかりと働けていることはすばらしいと思います。

昨年まで同居しておりましたが、「今おつきあいをしている人がいるので紹介したい。」と聞いたときはびっくりしました。しかし、△△さんとお会いして、「穏やかで優しさの中にもしっかりした方だ」と安心したものです。消防職員と保育士という仕事柄、コロナ禍で気を遣ってのつきあいも、大変だったと思います。入籍は昨年11月にしており、状況を見ながら本日を迎える運びとなりました。

さて、仏教の教えで親鸞聖人が唱え、経営の神様といわれた松下幸之助の言葉として有名な「人生には3つの坂がある。上り坂、下り坂、まさかのま坂。」という言葉があります。これからの人生、様々なことがあるかとは思いますが、互いを信頼し、しっかりと手をつないで歩んでほしいと願っています。

しかし、若い二人がこれから家庭を築いていく中で、きっと色々な困難にぶつかることでしょう。そんな時、ぜひとも皆さまの変わらぬお力添えを頂戴したく存じます。

本日は、何かと行き届かぬ点もあったかと存じますが、何卒お許しください。

ご列席の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。